

性の多様性等に関する意識調査

調査結果

令和8年7月

鹿児島県 男女共同参画局 人権同和対策課

I 調査の概要

1. 調査の目的

LGBTQの方々が、普段の生活や仕事をする上で抱えている困難（不便さ、不利益等）やパートナーシップ制度等に係る意見を把握し、本県における同制度の在り方を検討する上での基礎資料とする。

2. 調査項目

（１）基本属性（問１～５）

（２）性的指向・性自認に関する人権問題について（問６～１１）

（３）パートナーシップ制度等について（問１２～１９）

3. 調査方法

(1) 調査対象

県内在住のLGBTQ当事者

(2) 調査方法

Web回答（県電子申請共同運営システム）

※県内LGBTQ当事者（支援）団体を通じて実施

(3) 調査期間

令和8年6月2日（火）～30日（火）

Ⅱ 調査結果

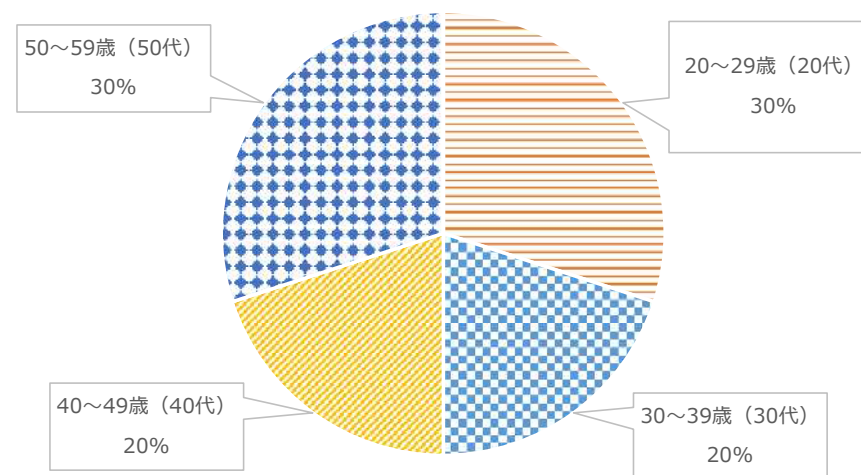
(1) 基本属性について

問 1 あなたの年代をお答えください。該当するものを選んでください。
(令和8年5月1日時点)

回答者：20代～50代の計10名

選択肢	1 8 1 9 歳 (1 0 代)	2 0 1 9 歳 (2 0 代)	3 0 1 9 歳 (3 0 代)	4 0 1 9 歳 (4 0 代)	5 0 1 9 歳 (5 0 代)	6 0 1 9 歳 (6 0 代)	7 0 歳 以上
計	10	0	3	2	2	3	0
	100.0	0.0	30.0	20.0	20.0	30.0	0.0

人 %



問 2 あなたのお住まい（住民登録のある市町村）はどちらですか。
該当する市町村を選んでください。

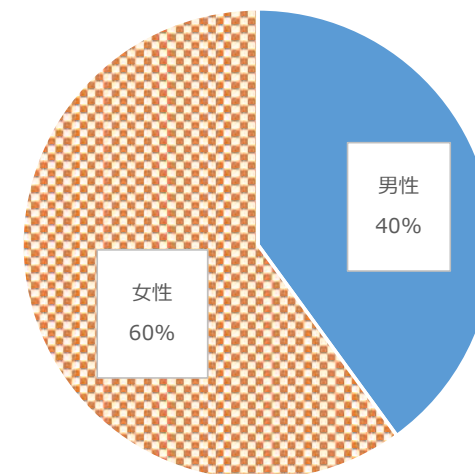
選 択 肢	鹿 児 島 市	出 水 市	指 宿 市	霧 島 市	始 良 市	
計						
10	5	1	1	1	2	人
100.0	50.0	10.0	10.0	10.0	20.0	%

問3 あなたの出生時の戸籍上の性別について、該当するものを選んでください。

出生時に身体的特徴や血液検査などで判断された性

選択肢	男性	女性	その他
計	4	6	0
	100.0	40.0	60.0
	0.0		

人 %

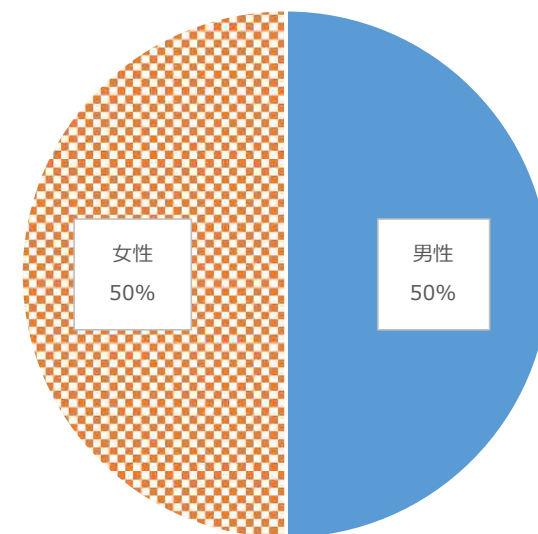


問 4 あなたの出生時の戸籍上の性別に関わらず、あなたが現在、自分自身で認識している性別について、該当するものを選んでください。

「性自認」、「性同一性」、「ジェンダーアイデンティティ」

選 択 肢	男 性	女 性	男 性 ・ 女 性 の 両 方	男 性 ・ 女 性 の ど ち ら で も な い	時 に よ り 変 化 す る	そ の 他
計	10	5	5	0	0	0
	100.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0

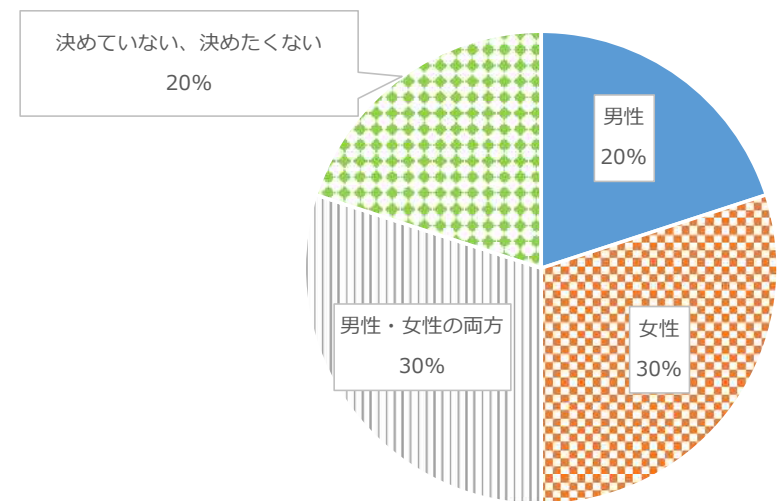
人 %



問5 あなたの恋愛の対象となる性別について、該当するものを選んでください。

選択肢	男性	女性	男性・女性の両方	好きになる性はない	決めていない、決めたくない	その他
計	10	2	3	3	0	2
	100.0	20.0	30.0	30.0	0.0	20.0

人 %



(参考) 回答者の性的指向のタイプ

性的指向のタイプ	人数（人）	割合	補足
バイセクシュアル （両性愛）	3	30%	男性・女性の両方に惹かれる
ゲイ（男性同性愛）	2	20%	男性として男性に惹かれる（トランスジェンダーの方を含む）
ヘテロセクシュアル （異性愛）	2	20%	異性に惹かれる（トランスジェンダーの方を含む）
クエスチョニング / 未決定	2	20%	決めていない、決めたくない（トランスジェンダーの方を含む）
レズビアン（女性同性愛）	1	10%	女性として女性に惹かれる
合計	10	100%	

Ⅱ 調査結果

(2) 性的指向・性自認に関する人権問題について

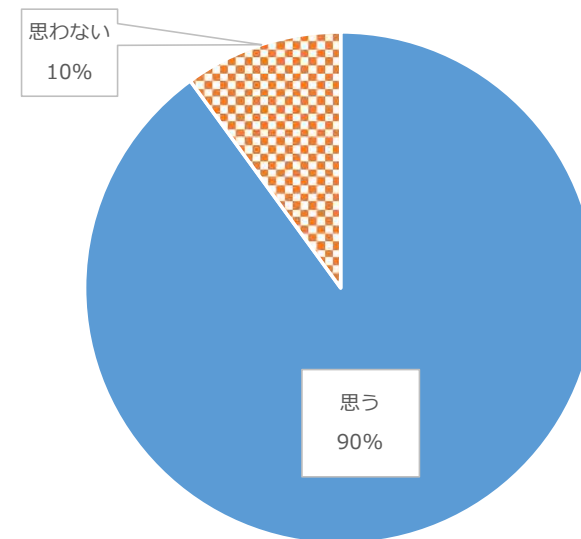
問6 あなたは、性的指向に関し、人権問題が起きていると思いますか。該当するものを選んでください。

「思う」 : 9人 (90.0%)

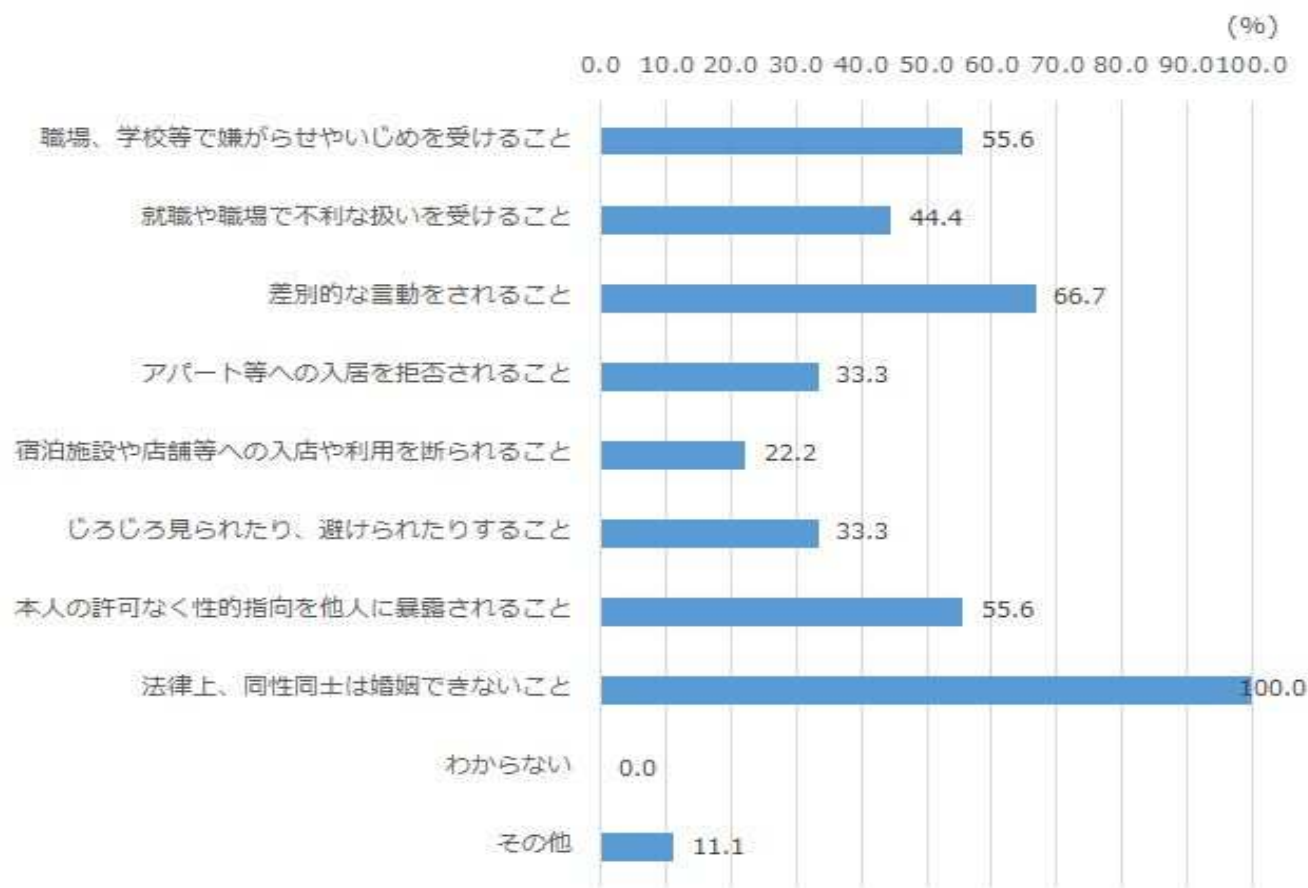
「思わない」 : 1人 (10.0%)

選択肢	思う	思わない
計	9	1
10	90.0	10.0

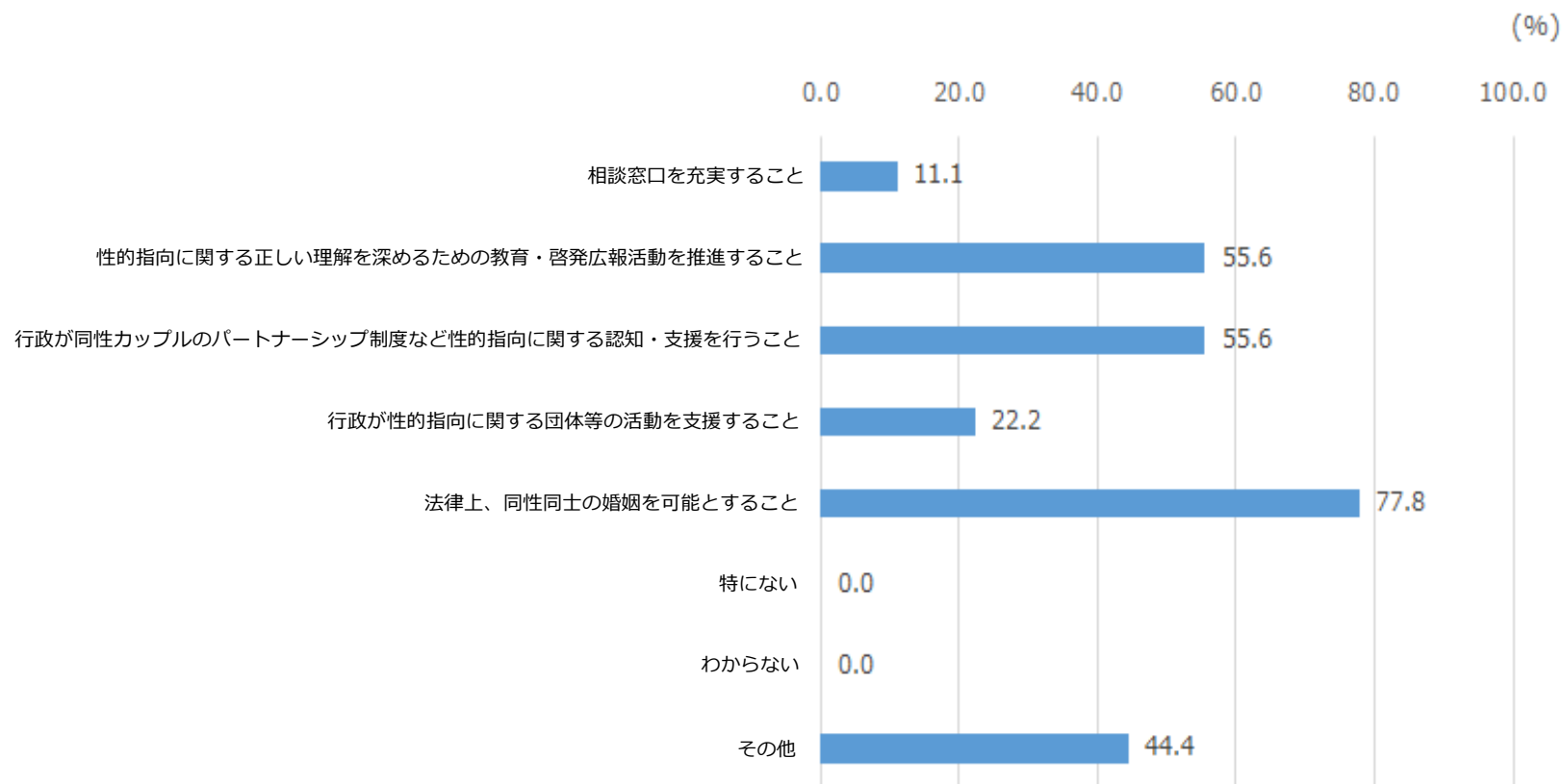
人 %



問7 問6で「思う」と回答した方にお尋ねします。あなたは、性的指向に関し、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。該当するものを選んでください。（いくつでも）



問8 問6で「思う」と回答した方にお尋ねします。あなたは、性的指向に関する人権問題を解決するために必要なことは、何だと思いますか。該当するものを選んでください。（特に当てはまると思うものを3つまで）



問8 問6で「思う」と回答した方にお尋ねします。あなたは、性的指向に関する人権問題を解決するために必要なことは、何だと思いますか。該当するものを選んでください。（特に当てはまると思うものを3つまで）：その他（具体的な内容をコメント欄にご記入ください。）

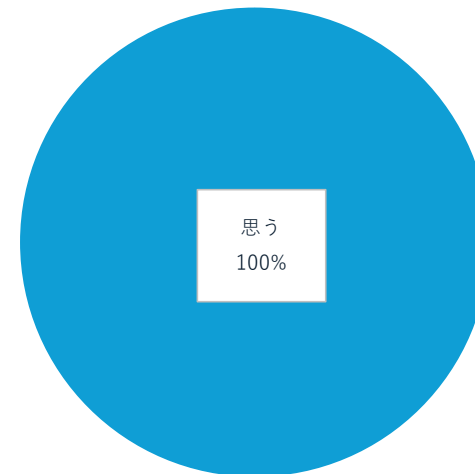
具体的な内容
特にない、わからない以外は全て必要だと思います。
LGBT理解を勧めるというよりは、SOGIの考えを促進してほしい。
正しい理解ではなく、正しい知識を深める教育・啓発活動が必要だと思います。理解という言葉は上から目線のように感じます。
相談窓口にこられる方がどれだけいるか分かりませんが、DVの電話相談などと同様に性的マイノリティの方がアクセスしやすい形でいつでもアクセスできるようにしておくこと。支援団体だけでは無理があります

問9 あなたは、「出生時に身体的特徴や血液検査などで判断された性」と「認識する性」が一致しないなど性自認（ジェンダーアイデンティティ）に悩んでいる方に関し、人権問題が起きていると思いますか。該当するものを選んでください。

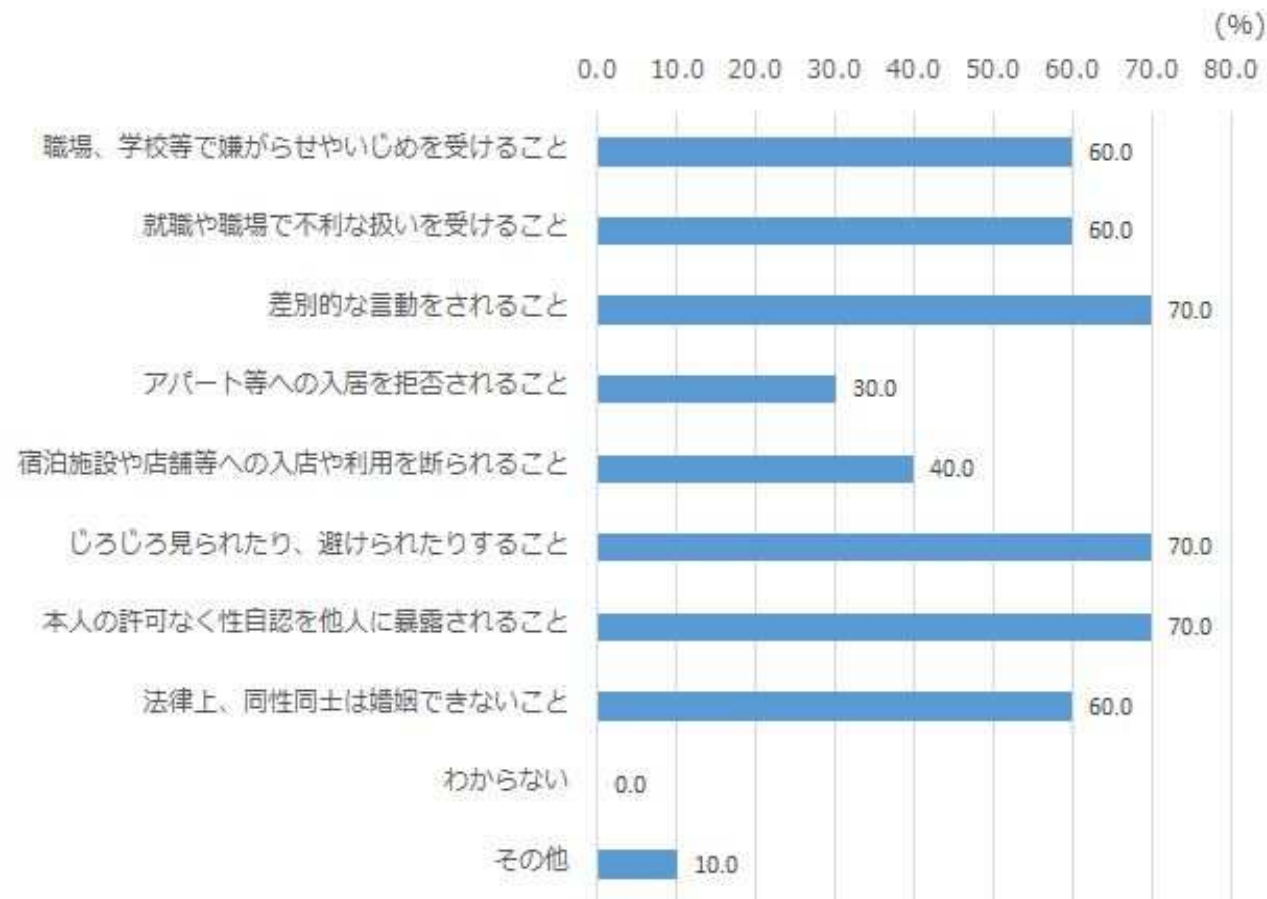
「思う」 : 10人 (100.0%)

選択肢	思う	思わない
計	10	0
	100.0	0.0

人 %



問10 問9で「思う」と回答した方にお尋ねします。あなたは、性自認（ジェンダーアイデンティティ）に悩んでいる方に関し、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。該当するものを選んでください。（いくつでも）

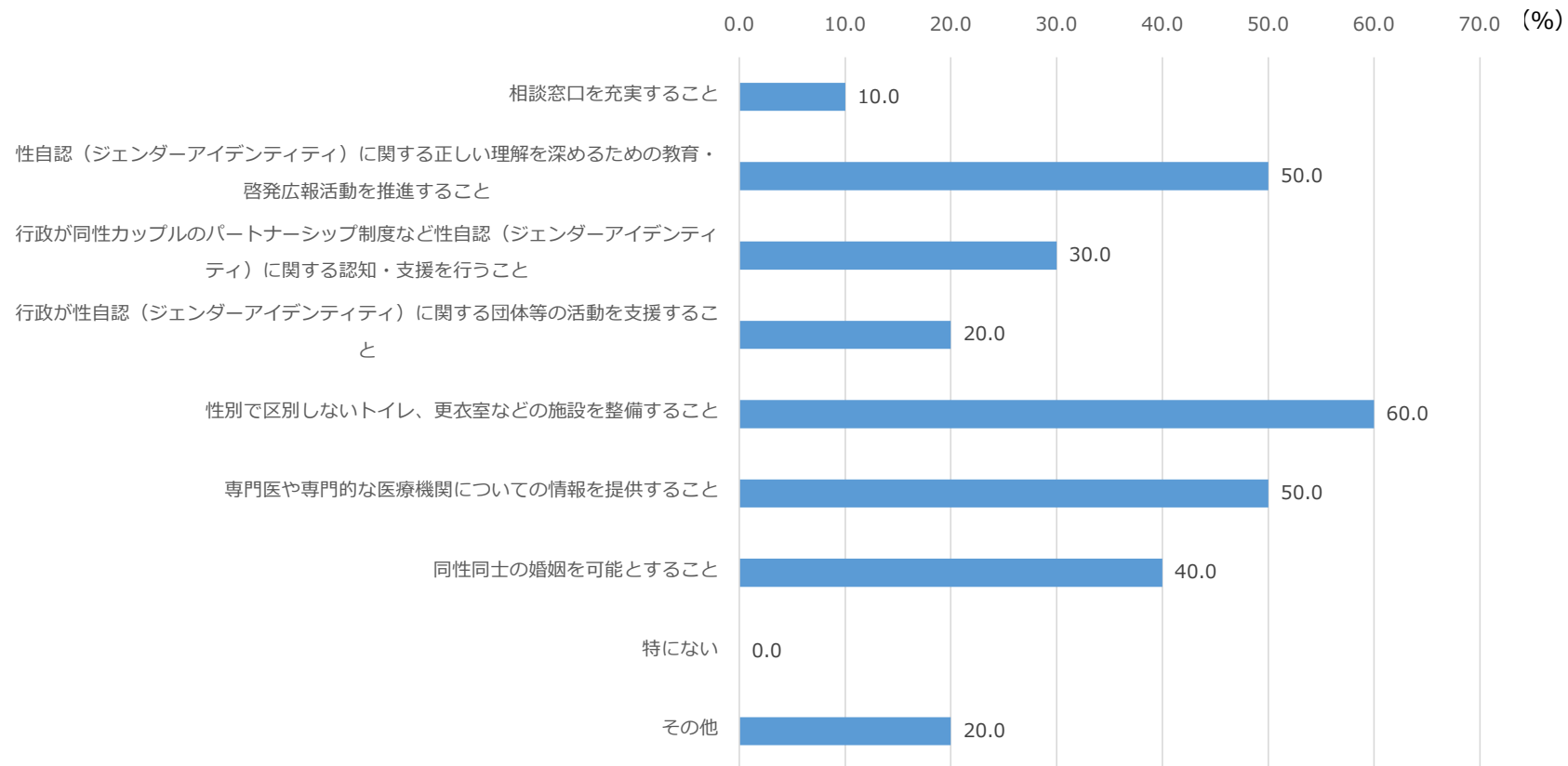


問10 問9で「思う」と回答した方にお尋ねします。あなたは、性自認（ジェンダーアイデンティティ）に悩んでいる方に関し、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。該当するものを選んでください。（いくつでも）:その他（具体的な内容をコメント欄にご記入ください。）

具体的な内容

社会に居場所がないと感じひきこもっている人が多いと思います。
居場所がないと思わせている社会の人権問題です

問11 問9で「思う」と回答した方にお尋ねします。あなたは、性自認（ジェンダーアイデンティティ）に関する人権問題を解決するために必要なことは、何だと思われますか。該当するものを選んでください。（特に当てはまると思うものを3つまで）



問11 問9で「思う」と回答した方にお尋ねします。あなたは、性自認（ジェンダーアイデンティティ）に関する人権問題を解決するために必要なことは、何だと思いますか。該当するものを選んでください。（特に当てはまると思うものを3つまで）：その他（具体的な内容をコメント欄にご記入ください。）

具体的な内容
特にない以外は全て必要だと思います。
鹿児島にもジェンダークリニックが必要だと思います。未成年からカウンセリングを受けたい人が増えているのに、岡山や大阪まで行かないと未成年への専門のカウンセリングが受けられません。

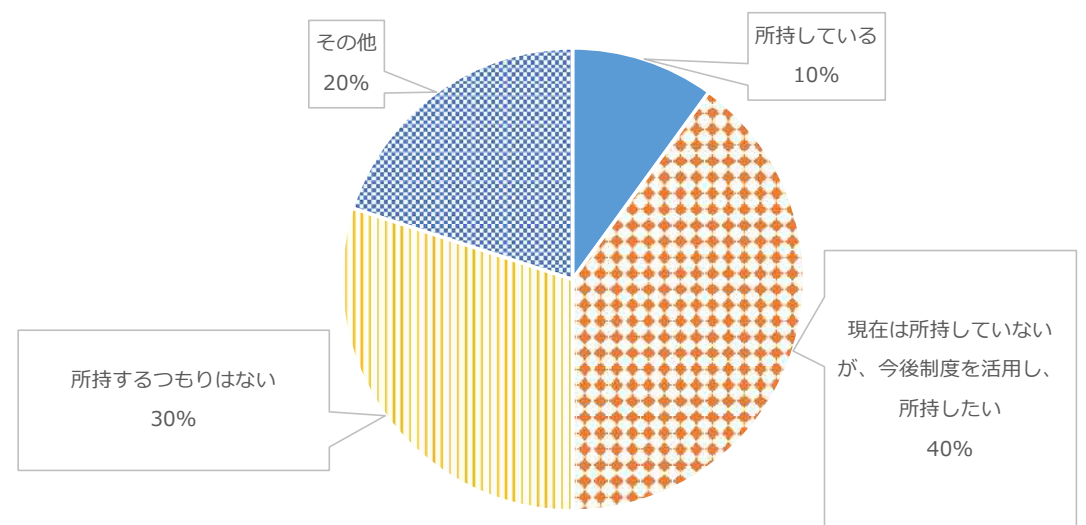
Ⅱ 調査結果

(3) パートナーシップ制度等について

問12 令和8年5月現在、鹿児島県内では13市町がパートナーシップ制度を導入しています。同制度の活用（宣誓書受領証等の所持状況）について、あなたの現在の状況を教えてください。

選択肢	所持している	現在は所持していないが、今後制度を活用し、所持したい	以前は所持していたが、現在は返還した	所持するつもりはない	その他
計	10	4	0	3	2
	100.0	40.0	0.0	30.0	20.0

人 %

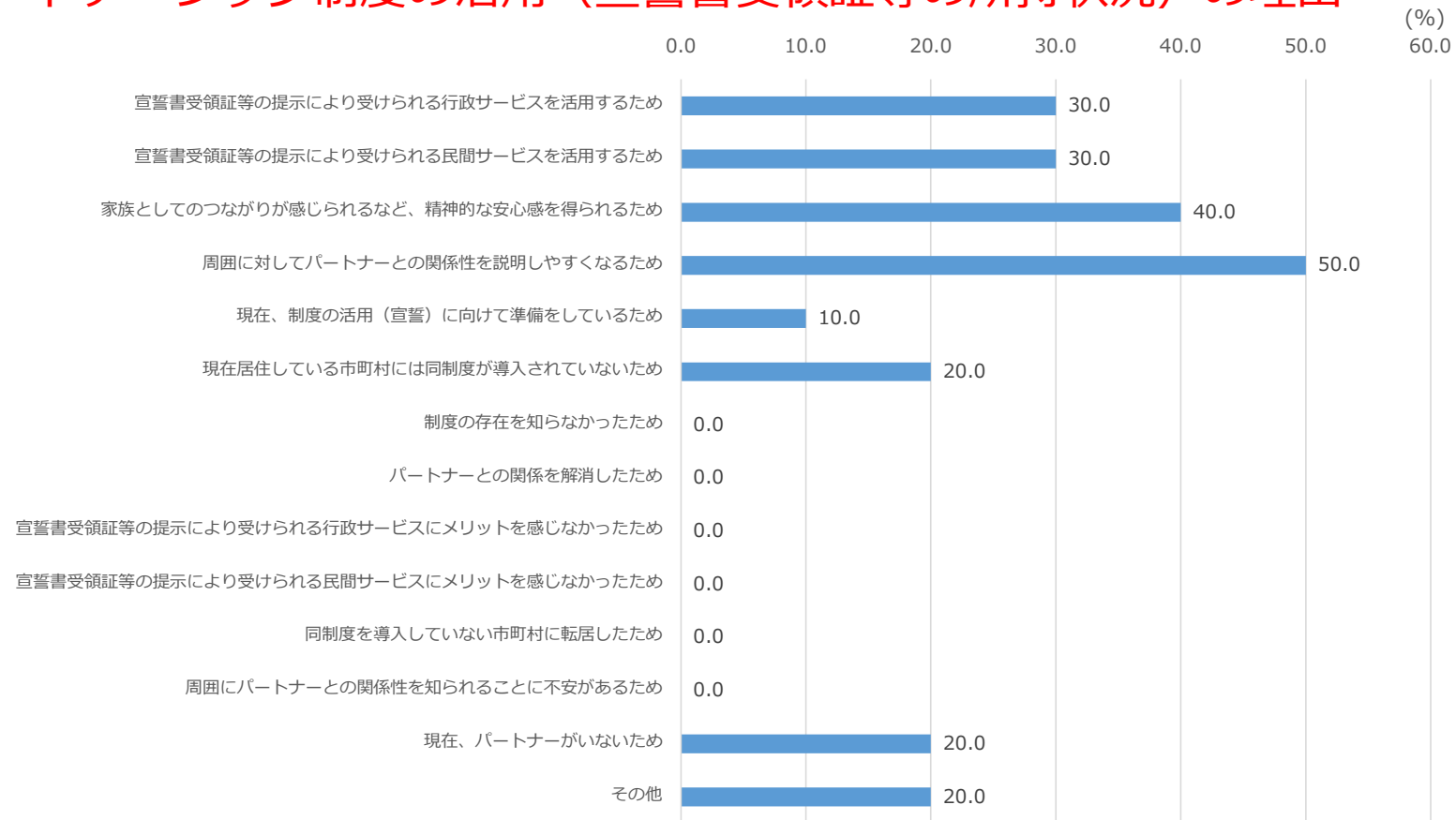


問12 令和8年5月現在、鹿児島県内では13市町がパートナーシップ制度を導入しています。同制度の活用（宣誓書受領証等の所持状況）について、あなたの現在の状況を教えてください。（その他を回答した方）

具体的な内容
異性であるパートナーとの間で使いたいが、鹿児島市では対象になっていない。選択的夫婦別姓が実現していないので事実婚を選択するしかない。
性別変更により異性婚ができたため利用はしていません。利用件数にかかわらず必要な制度ですが、同性婚が最も必要です。

問13 問12でお答えになった背景・理由についてお答えください。
(いくつでも)

パートナーシップ制度の活用（宣誓書受領証等の所持状況）の理由



問13 問12でパートナーシップ制度の宣誓書受領証等を「所持している」「今後所持したい」と回答した方の背景・理由

行政や民間の実務的なサービス（3人）以上に、「周囲に対してパートナーとの関係性を説明しやすくなる（5人全員）」、「家族としての精神的な安心感（4人）」という、精神的・社会的な関係性の公認を強く求める傾向。

今後所持したい4人のうち2人は「現在住んでいる市町村に制度がない」ことを理由に挙げている。

理由・メリット（複数回答）	該当人数(人)	割合
精神的な安心感（家族としてのつながり）	4	40%
周囲への説明のしやすさ（関係性の証明）	5	50.0%
行政サービスの活用	3	30.0%
民間サービスの活用	3	30.0%
【障壁】住んでいる市町村に制度が導入されていない	2	20.0%
【準備中】現在、宣誓に向けて準備を進めている	1	10.0%

問13 問12でパートナーシップ制度の宣誓書受領証等を「所持するつもりはない」と回答した方の背景・理由

- ・ パートナーの有無という個人的要因
- ・ 自治体間の制度に関する連携不足の指摘

理由・背景	該当人数 (人)	割合	理由の詳細
現在、パートナーがいないため	2	66.7%	個人のライフステージによるもの。
法的効力がない・制度に係る自治体連携の不足	1	33.3%	同性婚が法律上認められていないため、自治体制度では不十分。他県に転居すると無効になるなど、自治体間連携の不足を指摘。

問13 問12でパートナーシップ制度の宣誓書受領証等の所持状況について、「その他」と回答した方の背景・理由

属性・状況	理由の詳細
トランスジェンダー異性カップル（事実婚）	異性であるパートナーとの間で使いたいですが、鹿児島市では対象になっていない。選択的夫婦別姓が実現していないので事実婚を選択するしかない。
トランスジェンダー同性カップル	性別変更により異性婚ができたため利用はしていません。利用件数にかかわらず必要な制度ですが、同性婚が最も必要です。

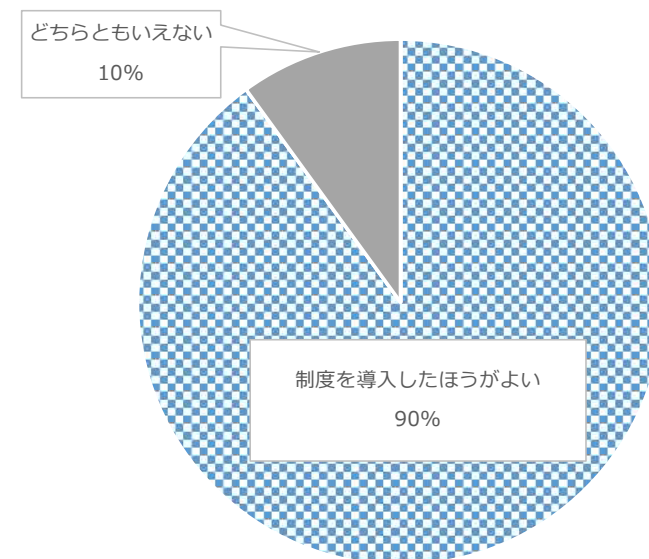
問14 県がパートナーシップ制度を導入することについてのあなたの考えに該当するものを選んでください。

「導入したほうがよい」 : 9人 (90.0%)

「どちらともいえない」 : 1人 (10.0%)

→理由：制度を利用したとしても、自治体間連携ネットワークが充実していないので、異性婚の様に、県をまたいで、結婚したり、転勤になった場合、無効になるから。

選択肢	制度を導入したほうがよい	どちらかといえば制度を導入したほうがよい	どちらともいえない	どちらかといえば制度を導入しないほうがよい	制度を導入しないほうがよい
計	9	0	1	0	0
	100.0	90.0	0.0	10.0	0.0
	人				%

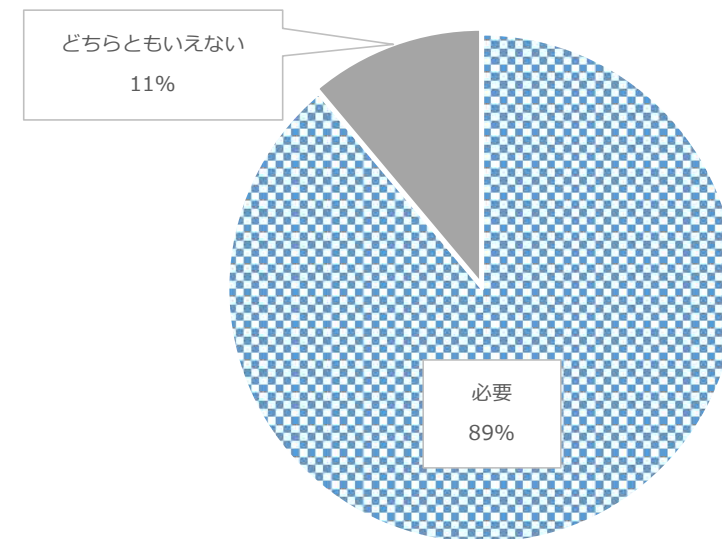


問15 問14で「制度を導入したほうがよい」または「どちらかといえば、制度を導入したほうがよい」とお答えした方にお尋ねします。 県が、パートナーシップ制度に加えて「ファミリーシップ制度」を導入することについて、あなたの考えに該当するものを選んでください。

「必要」 : 8人 (88.9%)
「どちらともいえない」 : 1人 (11.1%)

選択肢	必要	やや必要	どちらともいえない	あまり必要ではない	必要ではない
計	9	0	1	0	0
	100.0	0.0	11.1	0.0	0.0

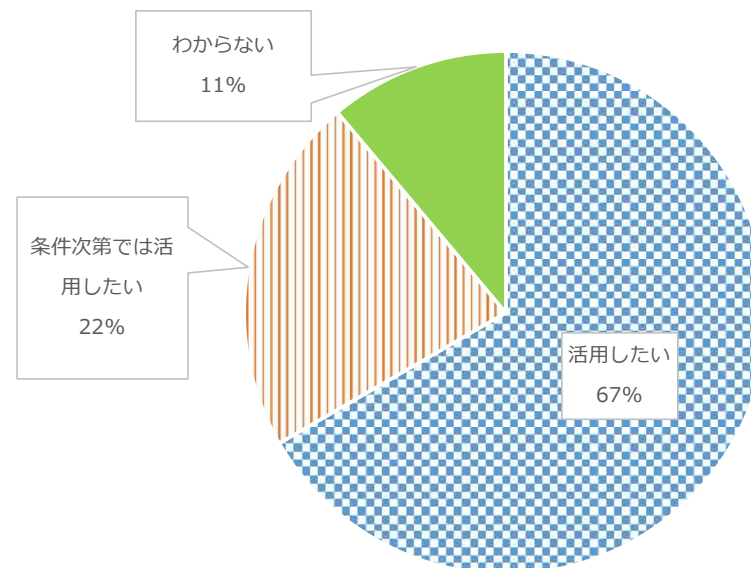
人 %



問16 問14で「制度を導入したほうがよい」または「どちらかといえば、制度を導入したほうがよい」とお答えした方にお尋ねします。県が、パートナーシップ制度やファミリーシップ制度を導入した場合、活用したいですか。あなたの考えに該当するものを選んでください。

「活用したい」「条件次第で活用したい」：8人（88.9%）
「わからない」：1人（11.1%）

選択肢	活用したい	条件次第では活用したい	活用したくない	わからない
計	9	6	2	0
	100.0	66.7	22.2	0.0
	1	0	0	1
	11.1	0.0	0.0	11.1



問17 問16でお答えになった同制度を活用したい／したくない理由について教えてください。（自由記述）

具体的な内容
僕自身がFTMのゲイなため、戸籍を変更した際に、現在のパートナー（男性）と家族のような繋がりを得ることができるから。
自身が現在、FtMのゲイのパートナーと交際しており、将来的に結婚も視野に入れているため、結婚した際に法的な関係を証明したいと考えてるいるから。
鹿児島市のパートナーシップ宣誓制度では、パートナーの片方がセクシュアルマイノリティであれば制度が利用できるとあるが、バイセクシュアル当事者が異性のパートナーを持った場合の想定がないように思う。日本は同性のパートナーとの法律婚も選択的夫婦別姓も導入されておらず、どの角度から見ても結婚の平等が実現していない状況。法律婚を利用できないすべての人たちが平等に使えるパートナーシップ制度の導入を求めます。
パートナーシップ制度を活用しているが、公務員として、配偶者ドックなどが認められていない。 今後、パートナーにもしものことがあったときに、特別休暇等が認められないのではないかと不安。

※ FTM（Female To Male）
出生時に割り当てられた性別は「女性」として生まれたが、自認する性別は「男性」である人。

※ MTF（Male To Female）
（出生時に割り当てられた性別は「男性」として生まれたが、自認する性別は「女性」である人。

問17 問16でお答えになった同制度を活用したい／したくない理由について教えてください。（自由記述）

具体的な内容
パートナーが戸籍上同性であれば絶対に利用します 病院や子どもを育てるために家族としての証明が必要だからです。 市町村が定めるパートナーシップ制度よりも、県として定めるパートナーシップ制度の方が包括的な制度になりうると思うため。 例えば、 ・パートナーと別の市町村に住んだままでもパートナーシップを申請することができること ・現在パートナーシップ制度を導入していない市町村にも引越しができること ・県内で市町村を跨ぐの引越しの際にパートナーシップ制度を手続きなしでそのまま活用できること など、生き方の選択肢が広がり、制度がより活用しやすくなると感じるため。 また、パートナーシップ制度と比べ、ファミリーシップ制度は、性的マイノリティのカップルだけでなくその子どもや親も含めた制度となるため、より多くの婚姻制度を使えない人々を、より包括的に支えうると考えるため。

問18 問14で「どちらともいえない」、「どちらかといえば制度を導入しないほうがよい」、「制度を導入しないほうがよい」とお答えした方にお尋ねします。その理由について教えてください。
(自由記述)

県がパートナーシップ制度を導入することについて「どちらともいえない」と回答した方の理由（再掲）

具体的な内容
制度を利用したとしても、自治体間連携ネットワークが充実していないので、異性婚の様に、県をまたいで、結婚したり、転勤になった場合、無効になるから。

問19 普段の生活や仕事をする上で困難（不便さ、不利益等）を感じていることや、県のこれからの取組に期待することなどについて、ご自由にご記入ください。

具体的な内容
パートナーシップ制度を、たくさんの市区町村に導入して、同性カップルの未来を明るくして欲しい。
もう少しで良いので、県全体に性同一性障害の方に対する、解像度の高い、理解するための心を学ぶことが出来る、教育を施し、将来的に県内が理解力のある若者を大勢抱える状態になってほしい。
自分は不便に感じる事はありませんが、制度がない事で困っている方は今もいて、必ず必要な方がいると思います。 早急に制度の導入をすすめてほしいです。
市ではなく県が制度を導入したほうが、色々便利になると思うので。
とにかく異性愛が前提とされていること自体が不便である。特別なことは望んでいない。いろんな性自認、性的指向、一人で生きる選択、どんな生き方を選択をしても幸せに生きる権利を保障する優しさのある県であることを感じさせてくれば、呼吸しやすくなる人々が増えると思う。県のパートナーシップ制度はその役割を担うことができると思う。
差別やいじめの原因は優しさや思いやりの欠如ではなく、正しい知識の不足からくることが多いと思います。 子供の頃から正しい知識を学べる環境の整備に注力してほしいです。

問19 普段の生活や仕事をする上で困難（不便さ、不利益等）を感じていることや、県のこれからの取組に期待することなどについて、ご自由にご記入ください。

具体的な内容

実際に治療するための医療機関や専門医がないことに困っています。鹿児島が閉鎖的だということで、鹿児島から出て行く人も多いです。

性的マイノリティでも、同じアイデンティティやセクシャリティの方に会ったことがないという声を聞きます。とても孤独だと思います。同性婚ができ、そのインパクトや同性婚している方が認知されることで社会は大きく変わると思います。県でのパートナーシップ制度も同じだと思います。九州でもパートナーシップ制度の導入自治体がワーストの鹿児島が変わるために必要だと思います。

県でのパートナーシップ制度が実現すれば、実際に鹿児島で生活しているが、表に出られない私たちを自治体が支援してくれていると感じ生きやすくなる一歩になると思います。是非導入をお願いします。

問19 普段の生活や仕事をする上で困難（不便さ、不利益等）を感じていることや、県のこれからの取組に期待することなどについて、ご自由にご記入ください。

具体的な内容
自治体間連携ネットワークを強化する必要がある。 学校でLGBT特にトランスジェンダー女性の当事者の話を聞く機会を作る。（トランスジェンダー男性は、スカートの代わりにズボンを履くなどは、別に問題にならないなど、社会的にもそこまで不利益が少ないが、トランスジェンダー女性は、トイレ問題や男性がスカートを履くと気持ち悪いなどの偏見や差別が沢山あり、社会的不利益が大きい） 学校教育現場自体、LGBT特にトランスジェンダー女性の理解が無いと感じる（以前ある中学校の校長と話したところ、自分はトランスジェンダー男性を知っているから理解していると言っていたけど、全くわかっていなかった） ゴルフ場の使用がトイレ・公衆浴場問題で湾曲して、いまだに利用させてもらえないデマによりLGBT問題にすり替えられて同性愛者が社会的批判を受けている。 同性愛者はイコールH I V感染者、汚い存在などというデマが流れているので、正しい知識を学校から学ぶ必要がある トランスジェンダーは、病院でのGnRH治療やHRTが保険適用外のために、莫大な治療費が必要になるために、治療費を支払うために夜の仕事をせざるを得なかったり、治療を断念している現実があるので、せめて保険適用にならなくても、性別不合の診断を受けた人に限りでもいいので、自治体で一部でも補助して欲しい 自治体でトランスジェンダーが治療を受けられる病院のリストを作って欲しい 鹿児島県でもSRSが受けられる様にして欲しい 日本国内でSRSを受ける際、自治体から補助してもらえる様にして欲しい トイレ問題、公衆浴場問題をはじめ、心が女性なのに何故、手術しないのかななどの批判や差別、偏見を受け続けるのは、本当につらいです

問19 普段の生活や仕事をする上で困難（不便さ、不利益等）を感じていることや、県のこれからの取組に期待することなどについて、ご自由にご記入ください。

具体的な内容

自分には現在、将来を共にしたいと考える同性のパートナーがいる。それぞれが住む市町村が違っており、いずれは同棲もとを考えているが、現状それぞれの生活状況により、すぐには同市町村への引越し(ひいては同棲)も難しい状況である。もし婚姻制度が使えるれば、別居した状態でも法の元に家族となることができるが、市町村単位での制度であるパートナーシップ制度ではそれが不可能であり、自分の今後の人生計画を立てる上で選択が狭められていると感じることがある。

今回このアンケートを受け内容を見るにあたり、県が(実現するかは別として)県としてのパートナーシップ制度、ひいてはファミリーシップ制度の導入を前提とした設問があること自体に、わずかながら今後の制度発展への希望が見え嬉しく思う。

パートナーシップ制度、特により包括的に活用できるファミリーシップ制度の導入が始まった都道府県についてのニュースは、そこに住む人々はもちろん、そのニュースを聞いた、日本に住む性的マイノリティの希望の一つとなる。(実際自分は他都道府県のパートナーシップ制度や特にファミリーシップ制度のニュースに喜び、SNSでもそこに住んでいない人でも喜んでいる姿をよく見かける)

ぜひとも私が育ち慣れ親しんだ鹿児島県には、県としての制度導入を進めていただき、国の制度からこぼれ落ちた人々を支えるための制度、権利を保障するための制度の拡充にて、性的マイノリティの県民、ひいては性的マイノリティの国民の希望の光となることを期待する。